

【牧者: Shepherd】

牧者とは、牧場で牛や馬を世話をする番人を言いますが、聖書では特に羊飼いを示します。ヨハネ 10 章 2～3 節「2・・・門から入るのは羊たちの牧者です。3 門番は牧者のために門を開き、羊たちはその声を聞き分けま

す。牧者は自分の羊たちを、それぞれ名を呼んで連れ出します。」【2・・・ he who enters by the door is the shepherd of the sheep. 3 To him the doorkeeper opens, and the sheep hear his voice; and he calls his own sheep by name and leads them out.】聖書は羊飼いと羊の関係をイエス・キリストと集会の信者との関係として教えられます。ヨハネ 10 章 11 節「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てま

す。」【“I am the good shepherd. The good shepherd gives His life for the sheep.】良い牧者であるイエス・キリストは、羊である集会の信者のためにいのちを捨てると言われました。いのちを捨てるとは、いのちをかけて羊を守ることです。羊が危険な状態になった時でも、命がけで救うことです。羊は牧者の声を聞き分けるとも書かれています。人はイエス・キリストという名を聞いたときに、人それぞれに違った反応を示すのではないかと思います。まず、イエス・キリストはキリスト教の開祖だと思ひ浮かべ、彼はユダヤ人ですから、ユダヤ人が聞いたときは、ユダヤ教の一派と考え、ユダヤ人のうちの一部の人が信じている宗教だと主張するでしょう。では、ユダヤ人でない人々、例えば日本人が答えるならばどうでしょう。キリスト教は外国の宗教であり、日本には日本の宗教があるので、キリスト教は自分とは関係がないと言うかもしれません。では、果たしてそうでしょうか？ローマ人への手紙 3 章 29～30 節「29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのではないのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。30 神が唯一なら、そうです。・・・」【29 Or is He the God of the Jews only? Is He not also the God of the Gentiles? Yes, of the Gentiles also, 30 since there is one God・・・】聖書に書かれている神は、天と地のすべてを創造された神が書かれています。このことについては、世の中で創造論と進化論が対立していますが、今はそのことではなく、聖書に書かれている、イエス・キリストの言葉についてです。誰でもイエスを信じるならば、彼の言葉に従います。

詩編 23 編「1 ダビデの賛歌。主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。2 主は私を緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われます。3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のゆえに、私を義の道に導かれます。4 たとえ、死の陰の谷を歩むとしても、私はわざわいを恐れませぬ。あなたが、ともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。5 私の敵をよそに、あなたは私の前に食卓を整え、頭に香油を注いでくださいます。私の杯は、あふれています。6 まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みが、私を追って来るでしょう。私はいつまでも、主の家に住みます。」【1 The Lord is my shepherd; I shall not want. 2 He makes me to lie down in green pastures; He leads me beside the still waters. 3 He restores my soul; He leads me in the paths of righteousness For His name's sake. 4 Yea, though I walk through the valley of the shadow of death, I will fear no evil; For You are with me; Your rod and Your staff, they comfort me. 5 You prepare a table before me in the presence of my enemies; You anoint my head with oil; My cup runs over. 6 Surely goodness and mercy shall follow me. All the days of my life; And I will dwell in the house of the Lord.】旧約聖書で、羊飼いが出てくる有名な箇所は、詩編 23 編のダビデの歌です。多くの人が、どこかで聞いたことがあるのではないかと思います。羊は弱い動物で、自分で牧草を見つけることができません。羊の性格は、弱っていても弱さを見せない動物のようです。(ホームページで見出しました。)だから、羊飼いはいつも羊の様子を気にかけて、羊を連れて移動し、良い牧草のある所へ導きます。水辺に導き、水を飲ませます。死の陰の谷を歩むとは、絶望の淵におかれた状態でしょう。熊や狼に襲われ、今にも殺されるかもしれない、そんな時に、羊飼いはいのちをかけて守ってくれます。この詩編では、ダビデは自分を羊とたとえ、神を羊飼いとしました。人間は一人では生きていけません。だれかの助けが必要です。神を助け手とした人は幸いな人です。

ダビデは、サウル王に追われる身になりました。いのちを狙われました。いつ殺されるかわかりません。それで気が休まる時がありません。しかし、ダビデはサウル王に復讐はしませんでした。すべてを神に委ねました。なぜなら、神は、羊であるダビデの牧者だからです。牧者は羊のためにすべてを犠牲にして守ります。食卓を整え、頭に香油を注ぐとは、食事に招いて下り、歓迎して下さったことを意味します。杯はあふれています。満たされるだけではなく、溢れるほどに満ち足りる生活を送ることができます。ダビデはサウル王から逃れ、サウル王が死んだ後、イスラエルの王となり、王国が成立しました。